

村内のお店を利用して応募しよう！ 「共通金券プレゼントセール」

東海村商工会では、「買って使って 支えよう みんなで 育む 東海村」を合言葉に、「東海村コロナ消費喚起応援キャンペーン 共通金券プレゼントセール事業」を実施します。村内の商業・飲食・サービス店(約80店舗で実施)で、500円お買い上げごとに1ポイントを差し上げます。10ポイント集めると各店舗で使える共通金券が当たる抽選に応募できます。村内の実施店で買い物をしてポイントを集め、ぜひご応募ください。



- 期間**▼2月1日(火)～3月31日(木)
実施店▼「共通金券プレゼントセール」の掲示(のぼり旗や店頭ポスター)のある店舗
抽選月▼5月 ※当選者の発表は、景品の発送をもってかえさせていただきます。
内容▼▽1等…共通金券3万円分(5本)
 ▼2等…共通金券1万円分(10本)
 ▼3等…共通金券2,000円分(150本)
その他▼共通金券は東海村商工会で販売しています。贈答用などにぜひご利用ください。
問い合わせ▼東海村商工会(☎282-3238)

ふるさと歴訪 ～歴史を再発見～ 村松海岸にみる文化的景観

東海村文化財保護審議会委員
宮田 裕紀枝

私には、幼い頃に家族と砂浜で遊んだことや、伯父・叔母やいとこたちとキノコ狩りをしたことなど、村松海岸には数えきれないほどの思い出があります。小学生の時には、照沼字田向に住む友達が、海鳥の卵焼きを「ごちそうしてくれたこと」もありました。また正月やお祭りの時には、大神宮の社叢を抜け、八間道路に並んだ露店をのぞきながら、海岸まで歩くのが恒例でした。

これまで村松海岸については、植生・菌類・地質・塩づくり(生業)・植林・民俗(十三参り)など、いろいろな視点から研究されてきました。

砂丘に関しては、15世紀頃から「塩づくりのムラ」として栄えたものの、潮風や飛砂の被害が大きくなり、17世紀初めに住民が他の地へ移住したという記録もあります。現在のような砂防林となつたのは、大正7(1918)年から昭和28(1953)年まで、砂防林植栽事業が行われたことによるものです。指導者の河田杰博士(林業技術者)や愛林組合の方々、そして村民の力で砂防林が造られ、海岸が守られてきました。村松海岸は人の手が加わって



【八間道路(令和3年4月12日撮影)】

きた浜辺、つまり「里浜」といえます。人が入ることで生態系、そして生物多様性が守られてきたのです。村松海岸は文化的景観であり、文化財の一つといえます。

しかしながら近年は、燃料や肥料などに使う松葉を集める「ザアラサライ(松葉さらい)」やキノコ狩りなどで、砂防林の中に人が入ることが少なくなりました。さらに松くい虫被害により、マツが枯れ、荒廃の一途をたどっています。

こうした中、村では、平成10年代に「立志記念海岸砂防林間伐事業」として、中学生による間伐作業が行われています。また平成20年代には「緑の基本計画」「東海村生物多様性地域戦略」などをうたい、飛砂防備保全林としてばかりではなく防潮林の機能を持つ、「海浜の未来のかたち」が示されました。そして令和元(2019)年からは「村松晴嵐『クロマツ林』リジェネプロジェクト」として、植林事業が行われています。

これからも砂防林が、「人」が関わることによって、維持され、豊かな生態系がよみがえり、本来の「里浜」として、守られていくことを願っています。